

保健室の窓から ⑤ 体育館のきまりを守る

福戸ハツピーレンジャー 参上！

田 口 孝

新学期や学期始めの児童朝会で、私の担当する健康委員会（体育委員会の仕事も兼ねる）は体育館の遊びのきまりを伝えます。そこに登場するのが「福戸ハツピーレンジャー」です。体育館遊びのきまり作りと福戸ハツピーレンジャー誕生までを紹介します。

体育館を仲良く安全に使う。これはいつの時代も小学校のテーマではないでしょうか。幼い一年生と運動神経が発達してきた六年生が活動する。授業の後は体がむずむずして思いきり体を動かしたくなる。遊びの種類も多様。雨天時や冬は特に子どもは体育館に集まる。誰もが納得するルールを作り、それを守って遊ぶということとは結構大変なことなのです。

それまでもボール側、鬼ごっこ側の区別や、ボール

の使い方などのきまりがありましたがいろいろな不満の声が上がっていました。そこで健康委員会では、どんな遊びをしているか、体育館の遊びで困っていることは何か、どのような体育館がよいと思うかを調査しました。

困っていることは、高学年がいつもボール遊びをしていて自分たちは遊べない、蹴ったボールが飛んできて怖かった、ボール遊びが鬼ごっこ側まで広がってきているなどでした。遊びの種類は、やはりボール遊びが多かったですが、一輪車や鬼ごっこやフラフープ、バドミントン、おしゃべりなど多様な遊びがありました。みんなの願いは仲良くボール遊びがしたい、いっぱい遊びたい、怖くない、楽しみたいです。集計結果

はすぐに大洋紙にまとめて児童朝会で発表しました。

さあ、大きい子も小さい子も誰もが楽しく遊べる体育館、安全に過ごせる体育館はどうしたら作れるのでしょうか。私たち委員会ではA案B案の2つの案を作り、学級会で話し合ってもらいました。代表委員会で各クラス案をまとめて時間をかけて話し合い、結果はA案になりました。A案は、体育館をボール側と鬼側とこ側に半分に分け、ボールを使う曜日を低学年と高学年で分けるといふものでした。ただし鬼側は、誰でもいつでも遊んでいいということです。だれでも安心して遊べますが、週の半分はボール遊びを我慢しなくてはなりません。

五・六年生にしてみたらかなり譲歩したものだと思えます。

それからは、一・二年生がのんびりとボールで遊ぶ姿や、ぶつかった時など「ごめん」と言い合う姿がみられるようになりました。体育館の見回り当番が注意をしたときに、他の子どもたちも一緒になつて「それ、だめなんだよ」と声が上がるとなりました。

健康委員会にはボールを蹴る、人にぶつける、注意するとふてくされるといふ児童がいました。職員室で

たびたび名前の出ていた彼でしたが、私はあえて彼を体育館きまり作りのリーダーにしました。「みんなが気持ちよく使える体育館にしようね。意見をまとめた発表するんだよ。お願いね」と彼に頼みました。

彼は投げやりな行動もしますが、自分で「そうだ」と納得すれば力を発揮できる子でした。調査用紙を書く、集計する、児童朝会で発表する、A案B案の提案も彼が推進してくれました。自分の活躍する場がほしかったのだと思います。相変わらずイライラしてボールを蹴ったりする行いは続いていましたが、前よりは減っていました。

さて、福戸ハッピーレンジャーのことです。ソイガイヤーやサドガシマンといったヒーローブームですから、きまりを呼びかけてくれるメッセージヒーローを作ろうと私が声を掛けたところ、子ども達はやる気満々。しかし委員会活動は隔週の月2回、さらに前期後期に分かれているので、時間が足りずにヒーロー作りは次年度の委員会に引き継がれました。

翌年は春からメッセージヒーロー作りが始まりました。ヒーローの人数、どんな願いを込めたらいいのか、名前、コスチュームの色を一時間かけて話し合いました。

た。次に図書館から「世紀のスーパーヒーロー図鑑」「正義のヒーロー大集合」などの資料を借りて、デザイン作りです。子ども達はこういうのは大の得意ですから、デッサン画を描き、全版の画用紙に一気に描きあげていきました。

幸せを広める「ハッピーレッド」は赤いヒーローでハッピーマークが飛び出すマシンガンを持っています。仲良しになる弓矢を持つのは「なかよしピンク」です。ピンク色のスカートにはハート模様散りばめられています。黄色のヒーローは「きまりをまもろうイエロー」です。胸に「守」の文字が



輝き、「ボールをけらない」と書いた旗を持っています。保健室の床に紙を広げて色塗りをしていると、廊下を通る子も「わあっ、かっこいい!」と覗いていきました。そして魅力満点の悪役も必要です。キラキラしたマイケルジャクソン風の悪者「やぶる星人」も誕生! お披露目会では拍手と歓声の中、ヒーローに込められた願いやアイテムの説明、体育館の約束の確認をしたのでした。

これから先も福戸ハッピーレンジャーが約束を伝えることでしょう。新学期やきまりが守られなくなった時にも3人のヒーローが登場し、その後しばらくの間ステージの上に掲げられて子どもたちを見守ります。

今年の委員会では子どもたちから新しいヒーローを作る提案がありました。遊具遊びは順番を守る、独り占めしないというヒーローです。

自分たちで作ったきまりやヒーローがいるから、自律的にきまりを守ろうとします。また、注意しあえる子どもになっていくのです。

(たぐち こう・長岡市)